

第 11 期第 1 回北海道水産業・漁村振興審議会 議事録

日時：令和 5 年 10 月 12 日（木）15:30～17:00

場所：TKP 札幌ホワイトビルカンファレンスセンター  
カンファレンスルーム 6C

【出席者】

委員 阿部会長、都木副会長、伊藤委員、尾崎委員、加藤委員、川崎委員、小西委員、須崎委員、糠塚委員、堀委員、宮崎委員、渡邊委員（委員出席者 12 名）

道庁 水産林務部長、水産局長、技監兼全国豊かな海づくり大会推進室長、水産成長産業化担当局長、水産基盤整備担当局長、企画調整担当課長、水産食品担当課長、水産振興課長、成長産業化担当課長、水産支援担当課長、漁港漁村課長、漁業管理課長、サケ・マス内水面担当課長、豊かな海づくり大会推進室参事ほか（道庁出席者 19 名）

発言者	内容
成澤企画調整担当課長	<p>それでは定刻になりましたので、只今より、第 11 期第 1 回北海道水産業・漁村振興審議会を開催させていただきます。本日司会進行させていただきます北海道水産林務部総務課企画調整担当課長の成澤でございます。よろしくお願いいたします。本日も会場とオンラインの併用という形で開催をさせていただきます。</p> <p>開催に当たりまして、主催者側代表として、水産林務部長山口より一言ご挨拶を申し上げます。</p>
山口水産林務部長	<p>皆さんこんにちは。水産林務部長の山口でございます。</p> <p>本日は大変お忙しい中、ご出席をいただきまして本当にありがとうございます。本審議会は知事の附属機関として位置付けられておりまして、本道の水産業・漁村振興に関する重要事項を知事の諮問に応じてご審議いただく、大変重要な機関となっております。委員の皆様には当審議会の委員にご就任をいただきまして、重ねて感謝を申し上げます。</p> <p>第 11 期になりますが、前期の 10 期から引き続きご就任いただいた 14 名の皆様と新たに丸水の宮崎常務に就任いただきました。本当にありがとうございます。各界各層にわたる幅広い分野の方々にお集まりいただきまして、この 2 年間のいろんなご審議をお願いすることとなっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>さて、本道水産業ですが、海洋環境の変化が大きく、特に今年は水温が異常に高い状況が続いており、大変心配されるところでございます。一昨年には、太平洋沿岸で幅広い範囲で赤潮による被害が発生し、また今年は海洋関係ではないのですが、中国による水産物の輸入停止ということで、大変大きな影響を受けている状況でございます。いずれにいたしましても、なかなか簡単に解決ができるような課題ではないですけれども、我々も一致団結して、皆様のお知恵も拝借しながら、本道水産業振興のために頑張っていきたいなと思っております。</p> <p>今年 3 月には、第 5 期となります北海道水産業・漁村振興推進計画を策定させていただきました。この計画に基づきまして、環境変化に対応した漁業生産の早期回復と生産体制の構築、消費者の皆様のニーズに合った道産水産物の供給力強化などに取り組むとともに、本年 6 月には、水産成長産業化を図る部署を我々の中に立ち上げまして、スマート水産業ですとか、あるいはカーボンニュートラルといった新しい取組も今着手しているところでございます。</p> <p>いずれにいたしましても、将来にわたり漁業者の皆様が安心して漁業を営む</p>

ことができるよう、水産業・漁村の振興を目指して頑張っていくこととしておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

本日の議題は令和 5 年度水産関連施策についてご説明をさせていただくほか、先ほどお話しました ALPS 処理水関連の色々な影響等について、ご報告を申し上げたいと考えてございます。様々な分野でご活躍されている委員の皆様から忌憚のないご意見、活発なご意見を頂戴いただくようお願い申し上げます。簡単ではありますが、ご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

成澤企画調整担当  
課長

今回ですけれども、第 11 期初めの審議会ということになりますので、会議に先立ちまして、オンラインの方も含めて委員の皆様のご紹介をさせていただきたいと思っております。委員名簿の順にご紹介をさせていただきますので、会場の皆様はマイクなしとなりますが、オンラインの方はマイクをオンにしてくださいまして、お名前など、一言ずつご発言をお願いいたします。

それではまず、阿部委員でございます。

阿部委員

阿部でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

成澤企画調整担当  
課長

続きまして、伊藤委員でございます。

伊藤委員

伊藤です。よろしくお願いいたします。

成澤企画調整担当  
課長

続きまして、本日オンラインでご参加いただいております、尾崎委員でございます。

尾崎委員

(一礼)

成澤企画調整担当  
課長

続きまして、加藤委員でございます。

加藤委員

加藤肇子です。よろしくお願いいたします。

成澤企画調整担当  
課長

続きまして、川崎委員でございます。

川崎委員

川崎です。よろしくお願いいたします。

成澤企画調整担当  
課長

続きまして、小西委員でございます。

小西委員

小西と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

成澤企画調整担当  
課長

続きまして、櫻木委員は本日ご欠席となっております。  
続きまして、須崎委員でございます。

須崎委員

信漁連の須崎でございます。よろしくお願いいたします。

成澤企画調整担当  
課長

続きまして、本日オンラインでご出席の都木委員でございます。

都木委員

北海道水産学部の都木と申します。よろしくお願いいたします。

成澤企画調整担当 課長	続きまして、同じくオンラインでご出席の糠塚委員でございます。
糠塚委員	糠塚です。よろしくお願いいたします。
成澤企画調整担当 課長	続きまして、堀委員でございます。
堀委員	増毛町の堀です。どうぞよろしくお願いいたします。
成澤企画調整担当 課長	続きまして、先ほどご紹介ありました、新しく委員になっていただきました宮崎委員でございます。
宮崎委員	宮崎です。よろしくお願いいたします。
成澤企画調整担当 課長	続きまして、盛田委員におかれましては、本日ご欠席となっております。また、山田委員についても本日ご欠席となっております。最後に、オンラインでご出席の渡邊委員でございます。
渡邊委員	消費者協会の渡邊です。よろしくお願いいたします。
成澤企画調整担当 課長	今、流れの中でもご説明しましたが、櫻木委員、盛田委員、山田委員におかれましては、本日ご欠席となっておりますので、ご了承ください。 次に、北海道側の出席者でございますが、前列水産林務部の幹部のみご紹介をさせていただきます。 先ほどご挨拶申し上げました水産林務部長 山口でございます。
山口水産林務部長	山口です。よろしくお願いいたします。
成澤企画調整担当 課長	続きまして水産局長の近藤でございます。
近藤水産局長	近藤です。よろしくお願いいたします。
成澤企画調整担当 課長	続きまして、水産林務部技監兼全国豊かな海づくり大会推進室長の津久井でございます。
津久井技監兼全国 豊かな海づくり大 会推進室長	津久井でございます。よろしくお願いいたします。
成澤企画調整担当 課長	続きまして、水産成長産業化担当局長の村木でございます。
村木水産成長産業 化担当局長	村木でございます。よろしくお願いいたします。
成澤企画調整担当 課長	なお、次長 渡辺と水産基盤整備担当局長 藤田でございますが、本日急遽用務が入りまして、欠席とさせていただきます。ご了承ください。 各課の課長等につきましては、お配りしております出席者名簿にてご確認をいただければと思います。 次に本日の資料でございますけれども、資料の最初にお付けしている、一覧表のとおりとなっております。

本日が第 11 期最初の審議会ですので、会長・副会長の選出までは、水産林務部長の山口が仮議長として説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

山口水産林務部長

それでは、私が仮議長を務めさせていただきます。

まず、本日の出席状況ですが、委員 15 名中、会場出席 8 名、オンライン出席 4 名、合計 12 名の方が出席されておりますので、北海道水産業・漁村振興条例第 27 条 2 の規定により、本審議会は成立しております。

それでは早速議事に入らせていただきます。議題 (1) 「会長及び副会長の選出について」上程をいたします。条例第 26 条によりまして、会長及び副会長は委員が互選すると規定されておりますが、選出の方法について、何かご意見ございますでしょうか。

伊藤委員

推薦がよろしいのではないのでしょうか。

山口水産林務部長

ありがとうございます。ただいま伊藤委員から推薦でというご発言がございました。いかがでしょうか。

(各委員から「異議なし」の発言あり)

山口水産林務部長

それでは異議なしということで委員の皆様からご推薦をいただきたいと思えます。

伊藤委員

会長には、前回に引き続きまして、北海道漁連の会長でございます阿部委員、そして、副会長には北海道大学の都木委員を推薦したいと思います。

山口水産林務部長

ありがとうございます。ただいま伊藤委員から、会長には阿部国雄委員、副会長には都木靖彰委員とのご推薦がございました。皆様いかがでしょうか。

(各委員から「異議なし」の発言あり)

山口水産林務部長

皆様のご同意をいただきましたので、会長は阿部国雄委員、副会長は都木靖彰委員にお願いしたいと思います。それでは阿部会長、都木副会長からそれぞれ就任にあたりましてご挨拶をいただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

阿部会長

北海道漁連の阿部でございます。ただいまご推薦をいただき、皆様のご承認をいただきまして、会長に就任することになりました。よろしくお願いいたします。

第 10 期に引き続きましての就任となりますが、様々な分野から選任をされた皆様のご協力いただきながら、当審議会有意義なものにしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

先ほど山口部長からのご挨拶にもございましたが、本道漁業は海洋環境の変化による影響を受け続けております。今年で例を挙げますと、秋サケについては、当初来遊予想では前年を上回る見込みでございましたが、9 月下旬時点では、全道の漁獲尾数は前年と同じ時期と比べますと、約 6 割強となっております。コンブについては、昨年よりは増産が見込まれてございますが、依然として低位な水準が続いているところでございます。

また、海洋環境だけではなく、国際的な社会情勢も変化をしており、ホタテ・ナマコ・サケ等、大規模の輸出が展開されている本道水産業において、ALPS 処理水の放出に伴う中国による日本水産物の輸入停止措置により、漁業のみならず、流通加工など各方面で甚大な影響を受けており、速やかに対策を講じていく必要があると思っております。

このように、様々な変化の渦中におりますが、将来にわたり安心して漁業を営めるよう、そして安定的に道産水産物が国内外に供給できるよう、北海道の水産業における今後の方向性を皆さんとともに考えてまいりたいと思っております。本日の審議会において、委員の皆様から自由に活発なご発言をお願い申し上げます。簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

成澤企画調整担当  
課長

ありがとうございました。  
それでは引き続きまして、都木委員。就任のご挨拶よろしくお願いいたします。

都木副会長

ご推薦いただきましてありがとうございます。北海道大学水産学部の都木でございます。しっかりと会長を補佐して、無事にこの会が審議されるように努めて参りたいと思っております。皆様よろしくお願いいたします。

成澤企画調整担当  
課長

どうもありがとうございました。それではここからの議事進行は阿部会長にお願いをいたします。よろしくお願いいたします。

阿部会長

それでは議事を進めて参ります。なお審議会の模様は録音いたしますので、以降、発言をされる方はマイクのご使用をお願い申し上げます。議題(2)「第11期北海道水産業・漁村振興審議会の運営について」事務局より説明を願います。

澤田課長補佐

(「第11期北海道水産業・漁村振興審議会の運営について」資料1-1、2、3に基づいて説明。)

阿部会長

ありがとうございました。ただいま説明が終わりましたこのことについて、何かご意見ご質問等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。  
それでは審議会の公開と傍聴につきましては、資料1-2、1-3の通りとさせていただきます。資料1-2に記載がございますが、当審議会の議事録の署名は会長が指名することになっておりますので、私からご指名をさせていただきますと思っております。  
今回の議事録署名委員ですが、川崎委員と宮崎委員にお願いいたします。お二人には後日事務局から議事録案が送付されますので、内容をご確認の上、ご署名をお願い申し上げます。  
では次に、議題(3)「令和5年度水産関連施策について」担当者から説明を願います。

澤田課長補佐

(「令和5年度水産関連施策について」資料2に基づいて説明。)

阿部会長

ありがとうございました。ただいま説明が終わりました。何かご意見ご質問等ございますでしょうか。

堀委員

増毛町の堀でございます。5ページの道産水産物需要拡大事業費であります。マイワシ・ブリ・ニシンということで、石狩湾が中心ですけども、最近留萌管内でもニシンがかなり獲れているということでありますが、メスの方は、数の子を持っているので、値段が取れるのですけれども、オスの方は、昨年あたりは30円/kgですから、一尾あたり10円ということですので、この需要拡大事業をぜひ進めていただきたいと思いますと思っております。  
また増毛町では、漁業者から、あまり食べられていないヒルカイ・イガいの需要拡大を町も応援してくれということで、来年度からヒルカイを先ほどご説明ありましたようにフェアだとか、そういったところで使ってもらったり、また、出荷するのに貝毒検査が1回あたり3万円かかるということですので、そ

ういったことも補助しながら、こういった拡大を進めていきたいなと思っているとあります。

また、もう1点ですけども、8ページの北海道ブルーカーボン推進事業費であります。増毛漁協ではですね、2004年から日本製鉄のスラグを使った藻場整備事業を進めております。増毛町でも、一昨年から単独で事業を実施しているんですけども、すごく成果の現れる海域と成果がなかなか見えてこない海域があるものですから、なかなか難しいというふうには思っているんですけども、昨年、日本製鉄と増毛漁協が初めてブルーカーボンをCO2の吸収量を49.5トン、クレジットの認証を受けたということでありまして、7万円/tと聞いており、販売はしていませんけども、こういったことが実際今進んでおりますので、藻場整備の方を重点に考えて、そして後からブルーカーボンがついてきたという状況でありますけども、今後とも進めて参りますので、ご指導をお願い申し上げます。以上でございます。

阿部会長

ただいまの意見を踏まえて、道側からの意見がなにか必要でしょうか。

堀委員

必要ないです。

阿部会長

1点目も大丈夫ですか。

堀委員

はい。

阿部会長

では、そういうことで。協力を惜しまないようによろしくお願いします。他は何かございませんでしょうか。

加藤委員

5ページ目の道産水産物需要拡大事業の事業内容にSNS等の特性を活かしたPRとあるのですが、現時点で「どさんぎょ」というFacebookページと日高振興局「ナナイロヒダカ」、「とれてます Oh 魚フェア」の3つをフォローしているものとして言いたいのですが、やっぱり、ちょっと「いいね!」をする人が少なかったり、シェアをしている人が少ないのがすごく気になっています。私も実は、福島県に先日SNSの活用で講師として呼ばれた時に同じことを言ったんですけども、SNSをしていないということは、かつてホームページがないことと同じぐらい駄目なのだけど、あったとしても、コメントに返したりとか、関係者がコメントを入れたりとか、シェアをして、エンゲージメント、見ている人が満足度を増やさないと、言っては悪いんですけど、「やってるだけ」だなということを感じていたので、お仕置きをするお婆さんではないんですけど、ここに「SNS等の特性を活かしたPR」ってもし書くのであれば、せめてFacebookページだったり、もしインスタがあるのでしたらインスタのページ名を載せたり、ここにQRコードを入れてシェアしてくださいって言ったり、あと私水産林務部の若手に対して4年くらい前にSNSの発信の講師を頼まれてまして、その時もすごく、若手が頑張っていたのを覚えているので、なんかこう、業務としてやっているのだけど、業務以上のことをやっている若手をもっと皆さんでこう励ましたり、なんかそういう「やってます」と、それが消費者に届くのはちょっと違うよっていうことを言いたかったです。特に回答がなくてもいいです。以上です。

阿部会長

今のは、ちょっと回答してもらった方が良いと思います。

近藤局長

ご意見ありがとうございます。そうですね。ただやっているだけというのはすごく痛い意見ですし、我々中高年よりも若い方々の方がやっぱりインパクトあるものやっつけていけますし、確かにコメントなりいいねをもらえるように努力しなくてははいけないなと思っています。

これとはちょっと違いますが、昨年ですね、石狩振興局の若い職員が動画サ

イトで定置に実際に自分で乗って、船酔いしながら作業をしている動画とかを新聞とかで取り上げていただいております。やっぱり役所で自分のところのホームページだけ挙げても見ただけというのは少ないので、効果的な PR というのは、若い人の知恵を使っていきたいと思いますけど、引き続きアドバイスいただければと思います。よろしくお願ひします。

阿部会長

今日は青年部の会長もおりますので、そういう若い人に協力をいただきまして、なんとか、いいねがいっぱいもらえるような、今だと動画サイトで方言とかも流行っているの、そういったようなものも真似をしながらですね、PR できれば良いのではないかと個人的には思っております。そういうことも含めましてよろしくお願ひいたします。

他、何かございますでしょうか。ウェブ参加の方は何かございますでしょうか。それでは、本題につきましてはここまでにしたいと思ひます。

次に、議題 (4) 「ALPS 処理水の海洋放出の経過と対応について」担当より説明を願ひます。

小林水産食品担当  
課長

(「ALPS 処理水の海洋放出の経過と対応について」資料 3 に基づいて説明。)

阿部会長

ありがとうございました。ただいま説明が終わりました。このことについて、皆さんからご意見ご質問等ございましたらよろしくお願ひいたします。

堀委員

ホタテですけども、8 月の ALPS 処理水が放出されてから、ホタテの価格はどのように変化していったのか。例えば 4 月のホタテ 1 キロあたりの価格と 9 月に入ってからの価格が、もしわかれば教えていただきたいと思ひます。

阿部会長

ホタテについては、全道の平均単価ですか、日本海、オホーツク海といった海域毎ですか。

堀委員

全道の平均で結構です。

小林水産食品担当  
課長

国の方が水産物の価格に関しては、調査というか、聞き取りして出しておまして、確か 7 月 190 円程だった価格が、8 月に 170 円程と。

阿部会長

日本海側の堀委員のところは、確か韓国向けに出荷していますが、そちらの方は値段がほとんど変わっておりません。オホーツク海側の方が、250 円だったのが今 190 円くらいになっている。渡島の方で今出しているのは長万部と八雲くらいですが、やはり値段が今一番安いところで 160 円くらいまで落ちています。渡島の方は両貝冷凍の方におまして、それが全部中国向けなので、やはりそこまで落ち込んだというような状況です。

堀委員

ありがとうございます。

阿部会長

ほか、何かありませんか。

小西委員

フードライターの小西と申します。「食べて応援！北海道」のサイトを今ちょっと拝見していたところですけども、ホタテの金額が下がっているというお話でしたが、実際、消費者目線でいくと、少しは下がっているのですが、大きく下がっているような感覚が消費者目線ではなくてですね、現在、物価高ということもありますので、「食べて応援！北海道」のキャンペーン内容が例えばコンビニと組んで、普段なかなか魚介類を食べない方達に食べてもらうというのはとても良い働きかけだと思います。

一方、報道で北海道の水産業、日本の水産業が困っています、皆さんで食べ

てくださいという応援喚起をしている流れの中で、スーパー等の売り場での広告費に施策としてお金を使うように見受けられますので、どのように検討を進めた結果、このキャンペーンを行うこととなったのかを教えてください。

小林水産食品担当  
課長

先ほどご説明したとおり、中国の輸入停止を受けて、中国に行っていた水産物が行かなくなった。これが大きな事実としてあります。このため、国内の消費にすぐ取り組む必要があるということがキャンペーンの発端でございます。  
(この後、国の政策パッケージ、道補正事業について概要を説明)

成澤企画調整担当  
課長

企画調整担当課長の成澤でございます。キャンペーンのお話で、主に今ご質問ありましたが、ご指摘のあったそのスーパーさんとかでの応援 POP ですか、そういったところにお金を使うのはというようなご指摘かと思うのですが、実はそのキャンペーン自体にはですね、道予算は使っておりません。

キャンペーンは完全に民間の企業の方が、ぜひ応援をしたいというお声がけをいただいたものを、こういった共通ロゴを使ってやらせていただいているというところでございまして、ロゴの使用に関しては、ある程度そういった道産の水産物を使っていただければ、自由に使っていただけるということで提供させていただいておりますので、スーパーさんの応援に係る宣伝費的なものはですね、民間企業の方のご協力をいただいているといったところでございます。

近藤局長

消費者の方にとってみれば、やっぱり余っているなら安くすればいいという話もあるかと思うのですが、生産者としてのコストというところがあるので、いくらが適正なのかということですが、消費者目線では食べやすい価格だと思うのですが、数量的にはやっぱりホタテは本道水産業の中で主要なところがありまして、オホーツク、噴火湾、稚貝の生産で日本海と本当にいろんな地域が関わっておりますので、漁業者の方々が、また加工屋さんが継続的に事業継続できるような、それは幾らがいいのかというのはちょっと言いづらいですが、そういう適正価格で皆さんが安心できるような価格設定のもと消費にも繋がればいいなというふうに思っています。ちょっと答えになってないかもしれませんが。あとは皆さん多くの方に食べて欲しいなと思います。あと先ほどのロゴマークについてもあちらに立っている若手が独自で制作したもので、お金がかかってございません。

小西委員

すみません。私でつきりそういう広告予算が掛かっており、その分を価格とかに転換してもらえたら嬉しいなと思って。

阿部会長

ホタテの価格をですね、今落としちゃうと、それが今度当たり前の価格になってしまって、消費者が「200円じゃなきゃ買わないよ」とかそういうふうになると困るので、加工屋さん大変厳しい状況の中で買っていて、それを流通させるということで、多少、今はリスクを背負った中でしているということで、価格帯をそこまで落とすと自分の経営状況も厳しくなるという状況もございまして、キャンペーン等での安売り等、そういったものはもうどんどん出てくると思うのですが、一般的に普通ずっと売っている時にはそこまで価格が下がってないっていうのはそういう実情なんで、そういったことを踏まえて、応援キャンペーンということでございまして、よろしくお願ひします。

小西委員

はい。しっかり食べたいと思います。

阿部会長

他にはございませんでしょうか。

渡邊委員

消費者の人ができるだけホタテを含む道水産物を、私自身も食べ、そして周りの方にも積極的に呼びかけることが道産の漁業を支援することだっていうふうにはわかっています。これから私たちもそうしていこうと思っているのです。



けど、ちょっとやっぱり底辺にあるのが、ALPS 処理水が本当に安全なのかという、この場所でお話すべきことではないのかもしれないのですけれども、その思いが拭えません。基本方針において 2 年程度後を目途に放出するとあり、確か 2 回目の放出が 10 月 5 日に行われたと思うのですが、今後、何回ぐらい放出して、そしていつ頃終わるのかということ、お答えできる範囲で結構ですので教えてください。

阿部会長

私、全漁連の副会長もやっております、直接岸田総理と西村大臣とお話をさせていただきました。科学的な進歩があれば早まるのかもしれませんが、最低でも 30 年掛かるそうです。それと ALPS 処理水ですけども、かなり綺麗な水です。IAEA からのお墨付きもいただいておりますし、海洋放出するたびに検査をさせていただきます。安心して、北海道・日本の魚介類が安全であるという認識を皆様にどんどん発信をしていく場を設けていきますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

渡邊委員

はい、わかりました。ありがとうございました。

阿部会長

はい。ちょっと時間の関係上、最後、道青連の尾崎会長に、先ほどの価格について、もしわかったら補足して欲しいほか、何か若い観点から一言あればお願いします。

尾崎委員

北海道漁青連の尾崎です。ホタテの価格に対して、さっきなぜ下がらないのかという話題がありましたが、僕ら生産者側からすると、やっぱり去年ほど価格的には伸びてはいないです。ただ、去年よりホタテの貝柱自体の歩留まりが良くないと言われて、ホタテの値段もそんなに伸びてないのではと。あと 8 月に放出された処理水による影響はあるにしても、今のところそんな大きな影響は僕ら生産者的には感じてないですね。ただ僕らが漁獲したものが処理されていないことで、加工屋さんや冷凍施設を持つ工場だとかは、結構な経費が掛かっているのではないかなと思っております。なので、安くはないのですが、本当、皆さんに消費してもらいたいなっていうのは、先ほどのキャンペーンのあたりで頑張ってもらえればなと思いました。

阿部会長

はい。ありがとうございます。今オホーツクの方は、そういうふうになっておりますけども、これはボディブローのようにだんだん効いてきますので、やはり早めの対策、これは必要かなと思ってございます。時間の都合上で、これよろしいでしょうか。今の議案については、ここまでにしたいと思います。

次に報告事項 (1) 「第 42 回全国豊かな海づくり大会 北海道大会について」担当からご報告願います。

中村参事

(「第 42 回全国豊かな海づくり大会 北海道大会について」資料 4 に基づき報告。)

阿部会長

はい。ご丁寧な説明ありがとうございました。ただいま説明が終わりましたが、報告事項ですのでなにかご質問の方が何かありましたら。よろしいですか。はい。ありがとうございます。なければ、本報告はここまでとしたいと思います。本日の議題につきましては以上となりますが、委員の皆様から何かございましたらご発言をお願いします。

伊藤委員

お願いでございますが、海上風力発電の件です。国のエネルギー対策の一環としては理解しておりますが、昨今新聞でも賑わっており、日本海側でもとりざたされている海上での風力発電。最近 EU だとかアメリカとかで環境問題がかなり報告されてきております。産卵海域の資源に深刻な影響が出る可能性も指摘されています。海上での杭打ちの衝撃波やそれからタービンもかなり大きく

なっているため、その振動・送電に関わる地域磁場の形成などによって、生態系の影響を懸念されております。本道に於いてもタラ、スケソ、ホッケなど重要な産卵場所や生態系の変化がないように、経済産業省の一方的な話だけではなくてですね、水産研究者を交えた、話し合いの場を長期に渡って委員会だとか審議会を設けて議論していただきたいなと思っております。

現在、資源管理のことが水産庁で今どんどん進んでいる段階でございます。産卵場所がなければ国の施策として片手落ちかなと思っておりますので、道としても慎重な対応をお願いしたいというふうに思っております。以上です。

阿部会長

はい。ありがとうございます。私の方からも国会議員の方に風力発電ありきではなくて、例えばサケの稚魚の放流だとか、ニシンの稚魚の放流である程度うまいことしている部分も、風力の微振動だとかもすごいらしいので。そういったことも検証してからというふうをお願いしておりますので、道の方にもバックアップしていただきましてですね。道漁連としてちゃんとやっていますので、何卒お力添えをよろしく願いいたします。

川崎委員

今日はありがとうございました。各委員さんの質問等に関して適切な水産林務部の方からご意見いただきましたので、本当に勉強になりました。

阿部会長さんがALPS処理水のことに対して、30年間は掛かるという話の中にも安心・安全な方向性に向けてのご意見いただきました。

私もコンブの生産者として、赤潮発生の際に安心・安全等に係る対応も普及所の人をお願いしていただきました。それと同様に本当に感謝しながら、先ほどのホタテの価格について安くしたらという意見については、私たちも同じですが、やっぱり生産者のことを考えたら、一定の価格で保持していけたら、ありがたいなと思います。私、これはホタテ生産者の方々に、行政の方々がこういうふうにして話していましたよとちゃんと伝えていきたいと思っております。

あとそれと渡邊真知子さん、何とか道女性連か漁業士会の女性の方々と料理教室を開催する方針で今度話し合いしましょう。加藤肇子さんもよろしく願いいたします。本当に今日はありがとうございました。来て良かったです。

阿部会長

大変上手に締めてもらいました。ありがとうございます。渡邊真知子さんに今ラブコールがございましたので、ぜひ参画をしていただければと思います。よろしく願いいたします。他になければ、事務局の方から何かございませんでしょうか。

澤田課長補佐

次回の審議会の開催の予定についてでございますが、次回は年が明けてからの開催を考えております。日程が近づきましたら、事務局からまた日程調整のご連絡をいたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

阿部会長

ありがとうございます。他になければ本日の議事は終了したいと思います。

成澤企画調整担当  
課長

阿部会長どうもありがとうございます。閉会に当たりまして、水産林務部長山口より一言ご挨拶をさせていただきます。

山口水産林務部長

本日は限られた時間ではございましたけれども、大変熱心なご審議をいただきまして、そしてたくさん貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。いただいたご意見につきましては今後の施策の検討ですとか、実施に当たりまして、しっかり活かして参りたいと思っております。

引き続き皆様には今後ともご助言、ご指導いただきますようお願い申し上げます。この会を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。

成澤企画調整担当  
課長

これもちまして本日の審議회를終了させていただきます。長時間どうもありがとうございます。

以上、議事の経過及びその結果を記載し、議事録署名委員2名により署名する。

第11期北海道水産業・漁村振興審議会

令和 5 年 10 月 30 日

議事録署名委員

川崎尚子

令和 5 年 11 月 6 日

議事録署名委員

宮崎烈史